

救 急 概 況

1 救急出場件数等の概況

平成22年中の救急自動車による救急出場件数及び救急搬送人員は、4,981件、4,667人であり、平成21年中と比較した結果、件数は207件、搬送人員は188人それぞれ増加し、過去最高の出場件数・搬送人員となった。

救急自動車による出場件数は、一日平均約14件で、約2時間に1件の割合で救急出場し、市民の約33人（前年約34人）に1人が救急自動車により搬送されたこととなる。

また、覚知から現場到着までの所要時間の平均は7.8分（全国平均7.9分）、医療機関収容までの所要時間の平均は30.5分（全国平均36.1分）となり、全国平均よりも短時間での現場到着及び医療機関収容となっている。

ヘリコプター使用による搬送件数及び搬送人員は、13件、13人であり、平成21年中と比較した結果、件数は3件、搬送人員は3人と共に増加している。

（内訳～高度救命センタードクターヘリ13件、民間医療用ヘリ0件）

1件は宗像市沖の島（離島）で発生した急病者を搬送した。

2 救急搬送人員の詳細

平成22年中の救急搬送人員を傷病程度別割合で見ると「軽症」が37.7%を占めている。事故種別構成比で最も大きかったのは、全体の61.1%を占める「急病」であり、年々増加傾向にある。年齢区分別割合で見ると「高齢者（65歳以上）」が、全搬送人員の56.6%を占めており、「成人（18歳以上65歳未満）」の35.1%を大きく上回っている。

急性期病院における在院期間の短縮化の方向性、介護保険制度における在宅ケア重視等の方向性など医療ニーズを有する高齢者がケアをしながら在宅で暮らす住民が増加するなどの要因により、今後も高齢者の救急件数は増加傾向となると考えられる。

3 市民による応急手当の状況

救命率の向上には、市民による応急手当実施率の向上、救急隊による迅速な搬送と応急処置、医療機関による適切な治療（救命のリレー）の地域総合力がいかに高いかが重要となる。

宗像地区消防本部では救命率の向上を図るため、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当の普及啓発活動を推進し、平成6年から普及啓発に取り組み、現在までに延べ49,500人以上の受講者数に達している。

平成22年中に応急手当が実施された傷病者数は、救急隊が搬送した心肺停止傷病者数の51%にあたる60人となっている。（平成22年中の心肺停止傷病者117人）
